


整理No.2018-47		労働災害状況調査表			
発生会社 事業所					
災害発生日時		2017年 12月20日(水) 14時10分 天候(晴れ) 温度(10℃)湿度(50%)			
災害区分		不休災害		休業災害 (休業:0日)	
被災者	部門	第1技術部		雇用形態	社員 派遣、契約、その他()
	年齢	32	性別:女性	勤続年数	8 経験年数 0
	傷病名	薬品による炎症			
	傷病部位	眼			
災害発生状況	試験板の塗膜を剥離するために、剥離剤(ネオリバー:ジクロロメタン含有)を使おうとしていた。剥離剤のキャップを開け、内蓋を開けたところ内圧により飛沫が顔面(左側)にかかった。直ぐに流水で洗浄を始め、十数分洗浄を続けた。左眼の目頭の付近に飛沫が付着した自覚はあったが、眼に入ったかどうかは自覚はなかった。服装は長袖で、保護具はビニール手袋を着用していたが、保護メガネは着用していなかった。			状況概略(写真orイラスト)	
					
	災害の型	8有害物との接触		作業の形態: 定常(非定常、その他())	
起因物:		剥離剤		特記事項:	
原因分類	1.人的要因(man) 例 不安全行動、手順にしたがったか、体調 等 保護メガネの着用が求められていたが着用していなかった。				
	2.物に関する要因(machine) 例 機械、設備の欠陥、不具合、工具の選定不良等 剥離剤は容器の半分程度が空隙になっていて、内圧がかかりやすい状況になっていた。				
	3.環境要因(media) 例 作業環境、気象条件の悪さ、安全指示が伝わらず等 実験室内は暖房が入っており、夜間と昼間の寒暖差で剥離剤の容器に内圧がかかりやすい状況にあり、また内部に結露が付きやすい状態だった可能性がある。				
	4.管理的要因(management) 例 日常管理の有効性(作業手順の有無、点検、指示者) 剥離剤の取り扱いに際し手決められた手順はなかった。				
対策	①取り扱いの手順書を作成する。特に蓋を開けるときにはウエスを当てるなどして、飛沫が飛ばないように方法を定める。 ②保護具の着用を徹底する。 ③内蓋に穴をあける				
	対策分類 (複数選択4つまで可)	1-2災害・事故の想定と対応 1-6教育		リストから選択してください リストから選択してください	